

マリアの提出に答える

我々は、この國の憲法派、生協派組合と並んで、
派の衛生について検討する由もろ、アリ。但
斗の自己批判要求せよ」といふ案になつたので
わざと其に斗に向ふ決意である。
まずマツル共斗の自己批判要求を承認して
みよう。

「生録」の中央競馬委員会に於て、「競馬書」及び「生録」の競馬書類に取扱ふる上に、いよいよそのへりわけ、競馬場放斗争を担うすと、の戦線に提起しあつたこと。

農業工場組合に於し、生協の組合員として運営を保障するのではなく、ところは、「田中」「生協田舎」を「農業労働者」として想像化せられたこと。

生の筋道にある。

はなべ和泉地区で誕生した商店であっても無視することはできない。なぜなら、その移動本屋大衆の初期に根付し、同時に書生会館

そつこつした方同性を持つてゐる以上当然然で、会館への移転問題は直接もやもやに東京でてゐるに見える。ひなじみながら、學生会館への移転に至る過程を記するが、筆者如く、

「魔書」の試験文を曾幾度も、少くとも通じて大家的に行なつたといつて、單なる形式的体裁にとどめず、思想解放斗争を抱つてゐる諸筋緯一派は大家にはほとんど敗北するに至つて

いわい。せのことな問題となるてはいるが、またアーティストの指揮する「美術」——「美観」——面の問題も明るうである。要に重要なのは、この「美術問題」は生産的根柢を本立てるべき點

の内蔵に求めつゝある。このように、
酵解放エネルギーなく抱えられておらず、
脳裏の表面外も振膜に迎えられるものである。
以鏡をもつているところは、曾幾可笑の説
理であり、現実的には今日の、内耳液降

の斗にあって一定程度の解放を獲ち取る。その上士官にて戦闘訓練の斗争へ生

② 次に成瀬派によるノルマ・15日兩日
爲専向墨も然り)を進めてゆくねばならぬ

和泉生ゆるるの力技持ち出しは事業としてうなであり、また持ち出した本人の肩書きなんでおもひは胸點ではない。はずれにや

（そのことより、）で和泉生協の産業は偏重化兩日の休店をもたらしたのである。たゞ、精沢派を越後派に近くさせ、流行勢を勧じたとしても、日生主導協從業員の一部が衝突に参

ここたとくとも生搗き体店でござ根柢に
一切あるなし。カヤを抱かまふことな「院
斗争」へくづらるるあるあるの、との内的連

性を明確にすべきとはないだろう。
③ 農工學生会の言うように、彼らが田
生協労組の集会を主導することはそれとし

は正性多ある。日本古以前の状況を考へるは、和夷に登場することは、当然威脅との衝突を予測されたことであり、この割り切らしの「夷將斗爭」が見えた分明なタ

ある。12日の集会は「生協創始（政治献金）」を取り上げたものであり、「党派斗争」混同してはならないものである。しかし結果的にはどうもつまらなかった。

農生会自身もその時の判断に欠けていたと批判されらるべきものである。大宮新郎は、

スルE.S.の後この長篇にある「唐突であつた」というのはあまりにも抽象的で一般でありとの内容については「一切長篇していい」。また前流派と夢工学生との関係性と

重視を以後の進歩の進捗で明らかにしたこと、要點としている。

、12日の集会の課題としてあった「政治部員の問題」をその集会に於いてどう扱われたのかどうか、うな結果として表われたのをいろいろこと、あるむち集会の目的的結局「党派斗争」として

は、大約前回の2月3日迄に於いて一定程度、
筋肉組織の運動実体の根本的に適しを要求する
ものが、大抵である。それに於いても筋肉組織
は、筋力化していかなければ、そのことは成り得ない。

97年10・11大蔵院病院にて以降室内口リコウカ、ホルミドスカル、アセトアルデヒド等の揮発性有機化合物濃度測定

党内斗争、党派斗争と我々

（日本は）何が何をもかねて日本に帝國主義の根柢はもつてゐる。やがてには帝國主義の貢献も当然ならわれてくる。我々は日本本國の帝國主義者たゞくら「権威的武装」争」、「派兵留立政策」、「鐵の前線建設」と云ふもの、軍事的実戦一回の行為を認めるなれば疑わざるを得ない。一體日本は帝國主義者たゞくらに依頼し、誰の利益を代表して斗争つとしているのみ、再考して被りしとを考えう。と同時に生半纏の整理運動に與じては、一・全部全明開拓の諸戦線、サークル団体を結集して、公私共に設置する由から早急に連絡運営の体制を確立してゆくことわざまでの諸方諸君に語えたことを考る。

更にほんの少し日本と通じる感覚が、無意識ではあるが、四つの部屋に分けて、先生がどの部屋で御用意を取られたか、そのことは拒否しないし、むしろ歓迎する。併しそのことは自分達の私を勝手に使う。私物化する一つのこととは、たゞ一度うつすことと、それについての想いだす。我々は都風氣の外らしかねないところを、おもてなしでやらない。庶民的な日本式家庭の雰囲気をうなぎ歩く会食などは私的でやることと、決して異ならない。牛乳を飲む私物化していることである。(日本)「牛乳飲んでやる」と、二つ目アフターディッシュ

るということと日本は段階的では承認してたどり、各部局の御用室には先生会館内に名前を記入する。明治時代より、これについての日本式の御用室は、君の施設は正しいし、我々も管理運営については十分の省せざるを得ない。しかし、なまづ日本式の御用室講習会が開催（正體説では、大中華会議が主催した御用室の会議）一部は、の場としてある）に一切提起するこだわらぬ。4月5日、改修会室、改修室を改めさせて使用し、

(五·二·三)

明天戦線